

# 【事業名】きさらづ里山里海プロジェクト

(千葉県木更津市)

【団体名】きさらづ里山里海未来拠点形成推進協議会

令和3年度 生物多様性  
保全推進支援事業  
実績報告書別紙10-6

## 事業の背景・目的

木更津市は、東京湾アクアライン等の交通網が整備され住宅地や商業施設の開発が進んだことで、近隣市や都心からの移住者や観光客が増加している一方、市全域の1/4を占める森林や、盤洲干潟といった豊かな自然環境の保全や資源としての活用が十分に行われていないという課題がある。そこで本事業では、モリアオガエル等が生息する一方でアメリカザリガニ等の外来生物や獣害被害の問題もある矢那地区等の里山や、アサリやアマモ等が大幅に減少している盤洲干潟等の里海を対象に、生物多様性の保全再生と持続可能な観光利用を着実に進めることにより、人と自然、地方と都市が共生する持続可能な共生型の社会の実現を推進することを目的とする。



## 事業の内容

第一に里山里海の体験拠点の環境保全と、体験活動を実施できる環境の整備を進めた。その上で、その環境を人々に伝えていくための観光・教育プログラムの開発を行い、実施した。同時に、観光・教育プログラムを効果的かつ継続的に運用していくための人材育成を専門家のアドバイスのもとで行い、さらに、本事業による環境への負荷を低減し、持続可能な利用を実現するための施策を実行した。

### ア 里山里海の体験拠点の環境保全・整備事業

チェーンソー講習会に参加し、森林整備のための機械を導入し、森の下草刈りと植樹、体験活動場所の整備を実施した。また、外来生物や害獣の生息状況を調査し、捕獲するための罠類を導入し、アライグマやアメリカザリガニ等の駆除を開始した。干潟のクリーンアッププログラムも実施した。

### イ 里山、里海体験による観光・教育プログラム創出事業

専門家や旅行会社を招いてプログラムの開発や体験会を15回実施し、効果的に学習できるプログラム内容を検討した。また効果的な教材や説明パネルの内容の検討をデザイナーと検討を重ね、12Pの学習教材を製作した。

### ウ 専門家招聘、監修による人材育成事業

専門家を招いて、干潟のプログラム開発について1回指導を受けた。また植樹の専門家から4回にわたり指導を受け、里山整備のための技術を学んだ。

### エ その他目的達成に必要な事業

剪定枝チップパーを導入し、里山の整備で伐採した木や竹をチップし、堆肥づくりを行った。ウェブデザイナーと打ち合わせを重ね、体験プログラムを発信するためのHPのデザインを検討し、ティザーページが完成した。



## 得られた成果

下草刈りや外来生物の駆除、被覆網によるアサリの保護等により、当該地域の里山や里海の保全に貢献しているが、里山と里海の事業者の連携も含めて、継続した取り組みが必要である。保護や整備を進めているフィールドにおいては、千葉県内の中学校を中心に校外学習の場所として訪れていただき、理解を深めていただいている。今年度はおよそ3,000人の参加者を集めた。

今後も継続して、里山里海の体験拠点の保全を実施し、本事業で開発したプログラムを継続的に発展させながら、生物多様性の保全へ貢献する普及啓発を行っていく。また、地域住民等と協働で干潟のクリーンアップや植樹を実施する他、生態系維持のための正しい知識を専門家から学ぶ機会も定期的に設けていく。これらの活動を通じて一般の方々に生物多様性に関心を持っていただき、生物多様性を守ることの大切さを伝えるとともに、具体的な行動へとつなげていききっかけとなることを目指す。

